仙台城大手門復元基本構想（中間案） 概要版

令和7年11月
仙台市教育委員会

資料２

構想策定の趣旨

(1)目的
- 大手門の令和18年（伊達政宗没後400年）までの復元に向け、史跡整備の現状・課題を改めて整理するとともに、復元事業の全体像を具体化し、将来の復元整備に向けた対応方針を示す

(2)位置づけ
- 本構想をもとに、今後、「史跡仙台城跡整備基本計画」（令和3年3月策定）を改定し、大手門復元を仙台城跡整備事業として明確に位置付ける

将来的に目指す姿

仙台城の正門の姿を再現
大手門の復元×周辺エリアの一体的整備

史跡の理解促進　**まちへの誇り・愛着**
新たなランドマーク　**観光の推進**

大手門の正面から
（第１期整備イメージ）

復元整備に向けた現状と課題

現状と課題	対応方針
発掘調査が一部のみにとどまり、地下遺構等の実態が明らかになっていない	今後も計画的に各種調査を実施し、遺構の整備を目指す
史跡未指定の土地がある	未指定地の史跡への追加指定を目指す
史実に忠実な復元は、建築基準法と適合させることが困難な場合がある	建築基準法の適用除外を目指す
現在の脇櫓は復元ではないが、現在城らしさを表現する数少ない建造物であるなど、多様な側面あり	当面の間は現在の脇櫓の維持・活用を図る
大手門跡直上を市道が通っている	車両通行の制限を含めた市道の取扱いを検討
繁茂した樹木等が本質的価値の顕在化を阻害している	植生の修景（伐採等）に継続的に取り組む

整備方針

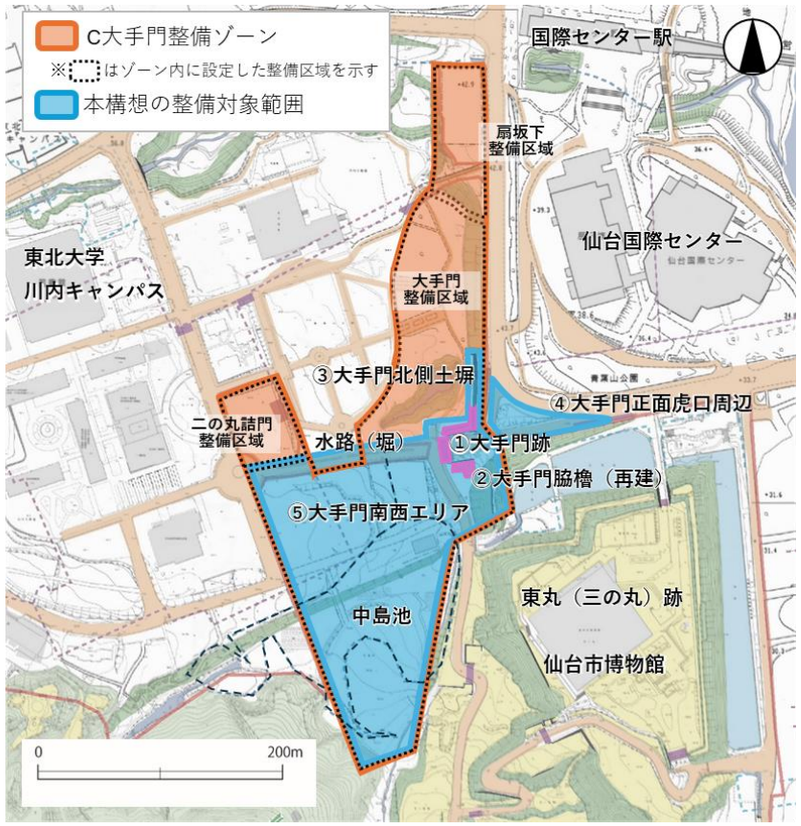
(1)段階的整備の実施

第１期整備
（～令和18年（2036））
大手門・脇櫓・土塀が
立ち並ぶ景観を再現

第２期以降の整備
（将来）
より城郭らしい
景観の創出を目指す

(2)整備対象とする時期設定
- 幕末期を原則とし、今後、基本設計段階で検討する

(3)整備対象範囲
- 本構想では以下の水色囲み部分を主な対象とする
- 市道仙台城跡線や周辺道路も対象とする



【大手門等の概要】

①大手門
- 江戸時代を通して仙台城の正門として機能（創建年代は諸説あり）。明治時代には陸軍第二師団司令部の正門となり、大正14年（1925）には仙台市が第二師団から借地して青葉山公園を開園し、一般に開放。昭和6年（1931）には大手門と脇櫓が国宝に指定された。昭和20年（1945）の仙台空襲により焼失。
- 構造：木造２階建て、入母屋造、瓦葺
  規模：１階　桁行約19.7m／梁間約6.8m／高さ約12.5m
  装飾：格子窓、火灯窓、菊花紋・桐紋の彫刻、鉄や青銅製の飾り金具、屋根の鯱瓦等　※時代考証が必要

②大手門脇櫓（以下、「脇櫓」）
- 仙台空襲時に大手門とともに焼失。市民の寄付が発端となって再建され、昭和42年（1967）に本市に寄贈。仙台城跡で城らしさを表現する数少ない建造物。
- 構造は木造モルタル造、２階建て。焼失前と意匠が異なる箇所あり。

対象ごとの整備方針／活用方針

対象	整備方針	活用方針
大手門	令和18年までに復元	常時歩行者通行可能／床上部分は公開／2階は非公開
脇櫓	現在の建造物を維持・活用	安全性確保の上で改修し、内部を公開／ガイダンス機能を有する施設として活用
周辺エリア	正面虎口は現在の道路形状を存続／南西エリア（中島池跡含む）は見通しの良い空間を再現／便益施設の設置を検討	散策や各種イベントの開催場所として活用／ライトアップ等により夜間も含めた集客を図る
市道仙台城跡線等の道路	令和12年度頃までに市道の通行を止めたうえで、主に歩行者用の通路等として整備を検討	自動運転バス等の導入／ベンチ等の増設
その他	遺構の保護／資材の適切な調達方法・期間の確保／安心・安全への配慮／良好な眺望景観の創出・維持等	

概算事業費（第1期整備）

- 大手門の建築工事費は、類似の復元事例の実績等を参考に算定した結果、概ね１５億円程度と見込む（物価上昇などは未反映）
- この他にも発掘調査や設計、周辺整備に係る経費等も必要となる
- 国の補助金の活用に加え、市民や企業からの寄附やふるさと納税等の多様な財源確保に取り組むこととし、そのための機運醸成に努める

スケジュール（大手門のみ抜粋）

R8
- 各種調査
- 史跡仙台城跡整備基本計画の改定

R9～11
- 基本設計
- 復元検討委員会

R12～13
実施設計

R14～17
工事

R18
完成
供用開始